

## IT21の会（平成23年5月）第151回議事録

日時：平成23年 5月13日(金) 18時30分～19時40分

場所：日本技術士会 葦手第二ビル 5階C・D会議室

出席者：22名（講演者のジギャン・タバ氏を含む）

配布資料：

1105-1 ネパールからみた日本 技術による国際協力（ジギャン・クマル・タバ氏）

議 事：

### 1. 役員からの資料確認

### 2. 講演「ネパールからみた日本 技術による国際協力」（ジギャン・クマル・タバ氏）

#### 1) ネパールの基本情報

- ・ネパールは巨大国インドと中国に挟まれる内陸国
- ・人口は3000万人で首都はカトマンズ
- ・200km（東京から静岡くらいの距離）の幅で標高差8000mの国土
- ・80年代まで君主制
- ・1990年に多数統制民主主義に移行

#### 2) 日本との違い

- ・1日12時間が停電（14時間だったものが2時間短くなった）
- ・冷蔵庫はない
- ・義務教育はなく、5・3・2制で高等学校は国家試験
- ・人々は気軽に声を掛け合う、日本では避けられる
- ・日本人は議論を避ける傾向があるように思う（意見を言わない）
- ・日本の学生は何故、寝ているのか  
（ネパールでは教育を受けたくても受けられない人がいる）

#### 3) ネパールとは

- ・世界トップ10のうち8つの山がネパールにある、2つはパキスタン
- ・IT分野の関連コースは4つの大学にある
- ・アメリカへの留学生が多い（2000人）
- ・固定電話は52万件で停電も多いため普及していない
- ・インターネット加入者は0.28%
- ・インターネットカフェは自家発電で営業
- ・識字率は50%（以前の26%から向上している）
- ・ラジオが重要な情報媒体、FM局が80ある、海外からもインターネットで聞く事ができる
- ・200万人が海外で従事し、国家予算より送金額が多い
- ・世界遺産が多い
- ・5000Mの高地に住む人も多く、飛行機が住んでいるところよりも下を飛んでいる
- ・鉄道はなく、バスと徒歩が移動手段
- ・移動で1日10時間歩く事もある
- ・観光客のトレッキングは5時間にするように通達がある

#### 4) 日本の国際協力のあり方について

- ・箱もの中心の援助になっている
- ・日本は技術を通じて国際協力を行なうべき  
箱もの支援からインフラ支援へ、そして援助より自助努力できる仕組みを作っていくといけない

#### 5) 自己紹介

- ・6才のとき知り合った青年海外協力隊の日本人の青年に会ったことがきっかけ
- ・「あなたとわたしが夢のなか。。。」の歌を覚えてもらい、来日後、それが「てんとう虫のサンバ」と知る
- ・2000年のODAによる国費留学生として来日し11年になる
- ・現在は横浜国立大学大学院の博士課程に在籍
- ・ネパール政府公式通訳者としてネパール政府要人が来日時の通訳を行なう
- ・ネパールを知ってもたうため、TV出演多数

**質疑)**

Q1: ネパールでは海外からの請負でソフト開発をしていますか？

日系の会社が10社あって活動している

IT系の大学では人材育成の一環として大学関連の会社でソフト請負業務を行なっている

e-medicineはネットを通じて診療を行い、処方箋も出せるシステムになっており、  
遠隔地医療が可能になっている

Q2: GDPの4割は農業だが、それ以外の産業は？

観光業の比重が大きい、エレベスト登山は数千万の登山料が発生し、一人当り800万かかる

Q3: 日本のコンビニは進出していないか？

日本のコンビニはまだないが、2008年に法改正で外資の参入が可能になった

カトマンズには、ピザハットとケンタッキーがある

**3. 初参加者の自己紹介**

5名の方が初参加で自己紹介されました

(小牛田尋志 記)